

重点検討事項の総括について

1 重点検討事項の趣旨・経緯

新型コロナウイルス感染症の影響により、芸術家や文化団体、企画制作スタッフ、関係事業者等は活動機会や収入を失うなどの大きな影響を受けた。とりわけ、職業として文化芸術に携わる文化芸術関係者においては、生計の維持が困難になるなど、活動継続(事業継続)にも支障が生じる事態となった。

一方で、県ではこうした文化芸術関係者の活動実態を適切に把握できておらず、このことが支援を行う上での課題となった。また、国においてもコロナ禍で同様の課題が生じた。

このため県では、文化芸術関係者の持続的な活動に向けた課題やニーズを把握し、施策検討や他分野の施策との連携等を進めるため、その基礎情報となる文化芸術関係者の活動実態を適切かつ継続的に把握していくこととした。



上記の趣旨・経緯に基づき実施した実態把握等の結果を踏まえながら、滋賀県文化振興基本方針(第3次)では、「文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方について」を重点検討事項として、滋賀県文化審議会において取り組んできた。

重点検討事項の総括について

2 検討経過

- ① 文化芸術関係者の把握(関係者の状況、コロナの影響)【第28回会議(R4.2)】
⇒結果:「文化芸術に携わる人」の対象、把握方法を議論した。
- ② 文化芸術関係者の活動実態の把握(文化芸術関係者の定義)【第29回会議(R4.8)】
⇒結果:文化芸術関係者の定義、把握方法を決定した。

●滋賀県文化芸術関係者実態把握調査を実施した。
アンケート【R4.10.19～11.20】・ヒアリング【R4.11.8～11.29】
- ③ 県内文化芸術関係者の状況調査結果報告【第30回会議(R5.2)】
⇒結果:実態把握アンケート結果を踏まえ、課題解決に向けた取組を議論した。
専業または兼業で活動されている方とそれ以外の方でクロス集計することを決定した。
- ④ 県内文化芸術関係者の状況調査分析結果報告(クロス集計)【第31回会議(R5.8)】
⇒結果:クロス集計結果を踏まえ、取組内容を検討した。
- ⑤ 調査結果から現状と課題を抽出し支援のあり方を検討【第32回会議(R6.2)】
⇒結果:調査結果から見てきた課題と支援のあり方を検討した。
- ⑥ 重点検討事項のまとめと今後の展開【第33回会議(R6.8)】
⇒結果:文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方を検討し、次期方針に反映させることを決定した。
- ⑦ 文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の検討【第34回会議(R7.3)】
⇒結果:部会設置を決定した。

3 調査から見てきた課題

■課題1 活動資金

- ・公演経費(出演費・会場費)の捻出に苦労している。
- ・オンライン活動に対する設備機器などの資金援助がほしい。

■課題2 広報・PR

- ・PRツールを持っていないので広報を手伝ってほしい。
- ・SNSを利用した広報の仕方がわからない。

■課題3 活動・発表機会

- ・ギャラリーなどの活動場所がもっとほしい。
- ・県や市のイベントがあれば声をかけてほしい。

■課題4:ネットワークづくり

- ・各文化団体との交流や情報共有の場がほしい。
- ・アーティスト同士の繋がりが生まれるような場所がほしい。

4 今後の展開

- ・「ウィズコロナ・ポストコロナ」を見据えた中長期的な文化芸術の振興に向けて、文化芸術活動者が継続的に活動できるような支援のあり方を引き続き検討し、次期基本方針に反映させていくこととする。